



つたの細道 散歩

せ い あ

藤枝市中ノ合26-1

医療法人社団 ^{しま}八洲^{かい}会
誠和藤枝病院

<054>638-3111(代)

診療時間

月～金
午前9:00～午後5:00

土
午前9:00～午前12:00

人の痛みが分かるエキスパートに

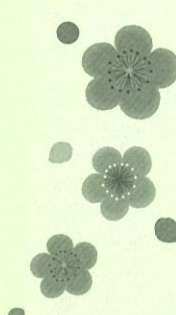
誠和藤枝病院院長 浅川 建史

突然、夫がいそいそと身づくろいをはじめます。妻は黙って、ネクタイ、スーツの着用を手伝います。勇んで玄関を出発しますが、自宅から数十メートルのところまで、たちまち立往生してしまいます。そっと寄り添った妻に促されて、近所を一回りして帰宅すると満足して、寝てしまうのです。彼女は特別な介護の方法も習ったわけでも、痴呆の心理を読むことに長けていたわけでもありません。働き盛りの夫の昔の栄光の日々を、夫と共によみがえらせる事が、自然に出来たのです。子ども達は独立し、夫と二人暮らしの彼女の心の底流にあるものは、老いた自分たちの「生」に対するいつくしみでしょうか。

二十一世紀は『エビデンス(証拠)』に基づいた医療(EBM)からさらに進んで、『個

人に合った医療(IBM)の時代といわれています。高齢者の医療・介護ほど、その個人差を考えなければいけないものはないでしょうか。様々な形や程度の身体機能障害や痴呆、そして患者本人やそのご家族の好みや価値観、取り巻く環境、一つ一つのケースに対して、限られた医療資源、介護資源をどの様に活用し、より良い生活の質を引き出すかは、多く未知の分野です。今まで以上に熟考されたきめ細かい医療・介護計画が必要になるでしょう。私たちは、常に課題を持って仕事をし、その成果をまとめ、日々スキルを高めていかなければなりません。高齢者の医療・介護のエキスパートをめざさなければいけません。

冒頭のエピソードが示唆するように、私たちは、豊かな人間性を持った社会人、つまり、仕事場では、よき上司、よき同僚、仕事を離れば、よき家庭人、よき隣人であることを目指す必要があります。なぜなら、医療や介護には、人の心を自然におもんばかれる力が不可欠だからです。老いた人、病んだ人、痴呆の人、そしてそのご家族の痛みや戸惑いを、読み取り共有し、その方々の「生」をいつくしめる事が、この誠和藤枝病院が、本当に地域から頼りにされる医療介護総合施設となる条件と考えています。



今年一年の抱負

二二B病棟

青木美都



昨年四月より婦長職を拝命しましたが、自分としては、まだまだ力量不足と思っています。少しでも、

向上できるように努力したいと思っています。看護職という専門性からも、日々の努力は欠かせないと思いますが、看護雑誌を購読したり、研修会に出かけたり、自分自身でもできる事を続けていきたいと思っています。

病棟内については、業務の見直しをする事や、カンファレンスの時間の工夫や充実を図る事により、ケアの統一性と質が高められるようにしてゆきたいと考えています。これは病棟の目標にもなりますが、私ひとりではできません。病棟スタッフはもちろん、他部門の方々とも連携を図りながら、やってゆきたいと思っておりますので、よろしく願います。



1/8 ししまいが来ました。



通所リハビリ〜夢いろ〜

看護婦

松永 光枝

利用者様、スタッフの笑い声や歌声などが一階に響き渡りにぎやかに行っております。介護保険制度が始まり私共に求められていくものは、利用者様個々のニーズを的確にとらえ、それを実現できるよう努力していくことであり、リハビリテーション、レクリエーションの充実をと考えております。よりよい通所リハビリにしていく為に、より一層頑張っていきたいと思えます。

12/18

幼稚園の
慰問が
ありました。





職員紹介



この職場に入り早四年。この病院も入社してからいろんな面で変わってきています。一人一人が今の現場をしっかりと把握し、患者さんには過ごしやすい楽しい生活の場、職員は誰にでも笑顔が絶えず、誰にでも助け合いが出来る、そんな職場であってほしい。自分の仕事を一生懸命やるのもいいけれど、いろんな視野から患者さんだけでなく職場のパートナーとして経験していける職員でありたいと思います。

河台沙登美

今回、院内報に載せて頂くと言う事で、純粹な気持ちで望んだ看護学生時代を振り返る事が出来ました。患者さんの目線に立ち、患者さんの言葉に耳を傾け、手で触れ、観て、聴いて、心のケアを重要視していた学生時代をです。今の私は、時間におわれ、ただ業務をこなすという機械的な看護をしているのでは、と考えます。もう一度、初心に戻り看護の大切さを考え直し、患者さんと向き合いたいと考えています。

市川知子

愚痴と不満と満足と私

たのもぎ 頼母木 孝

人は物事に対して、人に対して満足できずにいます。「あの人は…」「あの事は…」常に自分を基準に比較しがります。その昔、五万円の給与を目指して働いていた時のことです。残業もしました、結果五万円の収入を得ました。もちろん満足でした。しかし次の瞬間「今度はもっと欲しい」「10万円欲しい…」と思い始めていました。思いを満たしたそのすぐ後に次を満たす為に違う思いが生れる。これこそが不満だと思います。

ちょっと見方を変えます。次の瞬間に「五万円はあたりまえ、でも…」と考えますと「あんなにやったのに…」「あの人以上は…」「会社は…」ここから愚痴が始まります。えてして人のせいになり、自分は間違っていない、といきがつたり、これを天動説と言います。いかにも自分中心の狭い考えが愚痴の根源。自分自身振り返りますと、愚痴と不満の狭間を行ったり来たり。前向きに考えれば次につながる事でも、愚痴り始めると前に進むことができません。その結果「犬の遠吠え」になるのです。

不満は多いに持つべし、「次に何をすべきか?」「何が足りないのか?」積極的に考えるのです。満足を得るために……

さて満足とは?個々の感じ方も違い、生活しているうちは次々に不満が出てきます。不満と満足の繰り返し。本当の満足を得るためには小さな満足を積み重ねていく事が大事なことだと思います。こつこつとその瞬間を目指して……

職員募集

医療法人社団 やしまかい 八洲会 誠和藤枝病院

◎看護婦(士)

◎理学療法士 詳しいお問い合わせは
TEL <054>638-3111

作業療法士 担当 事務長 八木



編集後記

立春も過ぎましたが、これからが寒さの本番です。花粉も飛び始めています。皆さん、体調には注意しましょう。(c.s)